



佐藤 正之 Masayuki Sato

(株)学林ファーム
代表取締役

いつも平常心で!!

個人経営の時は学生実習や研修生の受入れを積極的に行っており、(株)学林ファームを設立するにあたっては、構想段階より農場HACCPとJGAP取得が念頭にありました。北海道近代酪農の礎、八雲町で牛と人の学びを深めている佐藤さんに、労働安全面のお話を伺いました。

Q. 労働安全における、現在の仕事をお教えてください

A. 各牛舎になるべく多く通って、目で見て話を聞いて状況把握とアドバイスを行います。従業員が、心身ともに仕事をしやすいようにするのが取締役の役割だと思っています。仕事のしやすさが、事故を防ぐことにもなるのではと考えてます。

Q. 安全に取り組んで、良かったと思う点をお教えてください

A. やってしまったことで個人を責めるのではなく、同じ失敗を繰り返さないことが大事だと思います。失敗はヒヤリハット報告書として記録して対応します(後Pで紹介します)。記録は後で振り返れる点も良いです。「記録」と「記憶」は全然違います。

また、農場HACCP、JGAPを取得している事で、従業員にも良い意味の責任感が生まれ「注目されている」という心構えが出来た点は良かったと思います。

Q. 安全を整える際、気を付けていることは何ですか

A. やってしまった人の気持ちになって考えること。一人を責めるような事は言わないですし、一方的に片方の意見を聞いて判断しないよう、双方の話を聞いて事実をきちんと確認します。自分が働きたいと思う状況に整えたいと思っています。

Q. 従業員に寄り添う姿勢がとても印象的です

A. ある程度人間が集まって働くところでは、同じく環境を整えているのでは。頭ごなしの否定をすると上手くいかないし、話もしてくれなくなる。従業員がまずいと感じている所は、最終的に会社の不利益に繋がる。従業員同士の相性も確認して、気を遣わせていたりしている所なども細かく拾い、色々なアプローチでお互いが納得する形を探ります。



1. 注意のサイン、サイン、サイン。道具置き場に、通路の段差前に、ありとあらゆる所に貼ってあった。注意することは、安全の近道。



経営概要

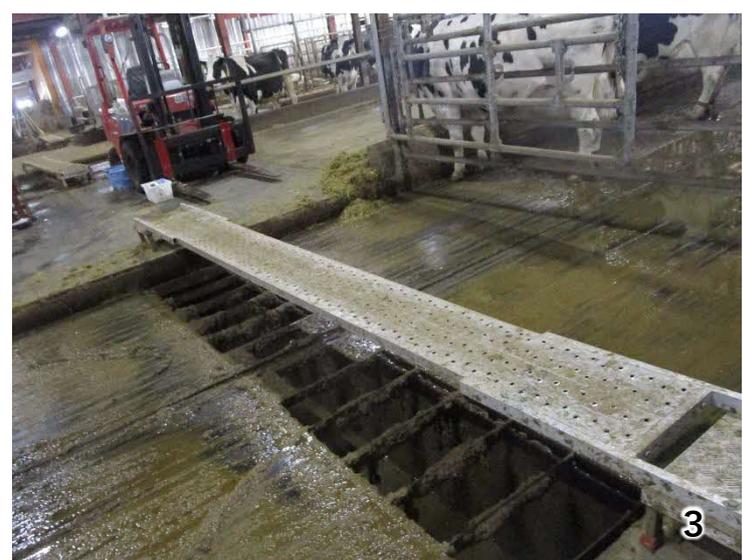
労働力 14名
 経営形態 酪農（搾乳ロボット6台、
 繋ぎ牛舎2棟）
 家畜飼養頭数、出荷乳量（令和2年）
 ・経産牛 400頭、育成牛60頭
 ・年間出荷乳量 3,220t

- Q. 安全を考えた時に、難しい点をお教えてください
- A. 人間は必ずミスをする。気の緩みはある。同じ過ちは起こる。人によって伝わり方も異なる。ゼロにはなかなか出来ない。これが組織でやることの難しさだと思います。個人経営の方が、体は大変でしたが心の負担は少なかった。今は牛と同じくらい人を見ています。
- Q. 安全を更に高めるために必要なことは
- A. 平常心で仕事ができること。感情を整えること。ゆとりがあること。モノで必要なことと言うよりも、意識ではないか。

- この前、職員から「取締役だけではなく全職員にも毎月会議が欲しい」と言われた（注：毎朝、出勤者でのミーティングは行われています）。色々調整を考えると大変ではあるが、継続して開催できるような環境を整えないと思っている。情報交換やコミュニケーションの継続は大切にしたい。
- Q. 労働安全に興味がある畜産農業者に、一言メッセージをお願いします
- A. 事故は起こるものだと思う。事故はつきもの。きちんと総括して、次に活かすことが大切だと思う。

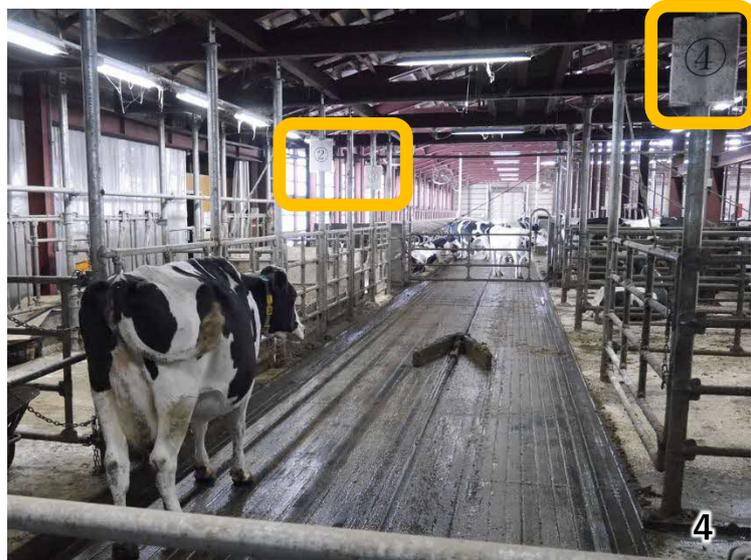


2



3

2. 入口すぐにあった、経営理念や農場HACCP、JGAP認定書など。従業員も来客者も必ず目に入る所に置くことで、従業員に良い意味の責任感が育っていく。
 3. 牛舎の通路ごとに設置されている足場。「長靴に糞をなるべく付けたくないことで、足が滑りにくくなり、なおかつ清潔も保てる」とのこと。



4

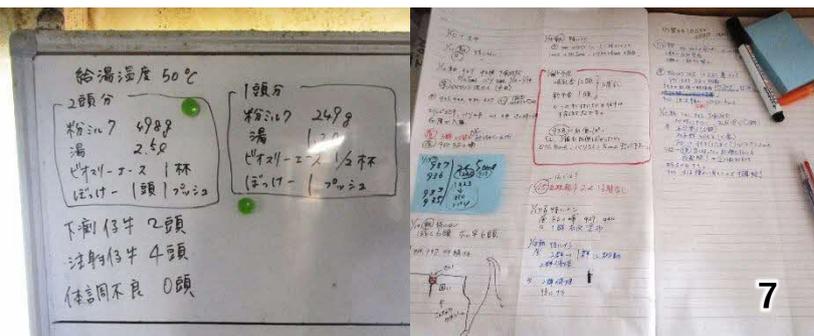


5

4. 分娩房には番号が付けられており、実習生や研修生でも迷うことなく番号ごとの作業が可能。5. トラクタの出入り口にあった安全ポール。



6. 繋ぎ牛舎。牛の情報は前の壁にあり、クリアファイルに情報を差し込み、なおかつ上からホワイトボードペンで情報を書き足していく。「乳房炎の治療情報は作業通路側にぶら下げていましたが、夏の換気等で飛んだり落ちたりしたため、色々試行錯誤して今はこのスタイルです」



7. 記録、記録、記録。日々の子牛の様子が一目で分かるようになっており、担当者のきめ細かな作業が垣間見えました。

Point!!

学林ファームで取り入れている 作業事故・ヒヤリハット報告書

1st 報告書を書くのは当事者で、どの事故を記入してもらうかはその都度取締役で判断します。学林ファームでは「事故後病院に行った」等が対象です。

作業事故・ヒヤリハット報告書

作成日 2020年 12月 15日

所属 哺乳舎 氏名 [redacted]

いつ(発生、または気付いた日時)
12月 15日 11時 30分ごろ

作業内容
[redacted]

状況略図
会議室/話所 ← [redacted]
哺乳舎

1 重大な事故に なりかねた
37 軽微な事故
30 ヒヤリ、ハット

何をした時
[redacted]

どうなった
[redacted]

原因
[redacted]

どうする(今後の対策)
[redacted]

その他(あれば記入)
[redacted]

処理欄(※報告書は以下の欄には記入しない担当)
[redacted]

2nd 事故の程度は「重大」「軽微」「ヒヤリハット」に分類します。次に「どこで」「何をした時」「どうなった」そして「その時の自身の状況」も記入します。

リスクを評価し対策を練る事で、「報告書」の意味を格段に向上させています

3rd 「今後どうするか」等を当人が考え、記入します

4th 取締役で、事故を9段階に分けた「リスクの見積評価」をして、再発防止策を検討し、周知します

5th 完了したら押印して保存します



このリスクの見積評価	3重度/致命	2中程度	1軽度	対策	年	月	日
3(高)日常的・定期的に発生	大	大	中				
2(有)まれに・非定期的に発生	大	中	小				
1(低)きわめて起こりにくい	中	小	小				

